

## 国際小児がんコーホートコンソーシアム(I4C) ワークショップ参加報告

メディカルサポートセンター 石塚一枝、目澤秀俊

2015年11月16日から17日にイギリス、オックスフォード大学にて、国際小児がんコーホートコンソーシアム(International Childhood Cancer Cohort Consortium: I4C) ワークショップが行われ、メディカルサポートセンターより石塚一枝・目澤秀俊の2名と、腫瘍専門医として成育医療研究センター小児がんセンター脳神経腫瘍科 寺島慶太先生の計3名が参加しました。

I4C は小児がんの発生に焦点をあて、世界各地の出生コーホート研究の連携・協調をはかることを目的に結成され、今回で8回目のワークショップの開催となりました。日本においては、年間2,000~2,500人のお子さんが「がん」と診断されており、小児の死亡原因の上位を占めています。また、メカニズムの究明や効果的な治療方法の開発が求められる疾患の一つです。しかしながら、発症率は1万人に1人程度であり、10万人を対象とする大規模な日本のエコチル調査であっても小児がんと診断される可能性のある人数は10人程度ということになります。そのため、各国のコーホート研究の規模だけでは、原因を究明するために十分な情報が得られないという問題が生じます。そこで、世界中のコーホート研究のデータを組み合わせて調べるI4Cの活動がスタートしており、エコチル調査も参加しています。

I4Cにはアメリカ、イギリス、オーストラリア、フランス、スペイン、デンマーク、ノルウェー、中国、日本が参加しています。今回、新たに中国とオックスフォード大学が主体となり行っている多国籍コーホート研究の参加となり、より大きなコンソーシアムとなって参りました。

エコチル調査においては2014年から小児がんの調査がスタートしており、現在までに得られた情報の途中経過報告をしたところ、I4Cからのエコチル調査の連携を強く求める声が多数聞こえてまいりました。国内の小児がんの発生と環境物質との関連を解明すると同時に、将来的に海外の研究データと協調させることで、エコチル調査自体の意義が益々深まることを再確認いたしました。